

..... 編集後記 .....

◆ 小学生による事件がまた発生、梅雨のうとうしさも倍増の感がある。子供達はコンピュータゲームやメールに没頭し、楽しんでいるようでもあり、その反面、虜になり、もがいているようにも見える。ITを使いこなすことは、これからの社会を生き抜く上で重要。でも、子供達には自然に接してそれを体感し、その中に築かれた社会を、そこに生きる人間を見つめ、社会の一員としての基礎を確実に身につけてほしいもの。この雑誌も、子供達を自然の中に誘うことに貢献したいものです。

◆ さて、本号は「北薩地域金鉱床調査の歴史と成果—菱刈・串木野鉱床を中心として—」と題する特集号となりました。九州大学・鹿児島大学・福岡大学・旧金属鉱業事業団・産総研の研究者やOBなど、この分野のトップの方々多数にご執筆いただいた大作です。

金量200トン以上という菱刈鉱床の発見は、「日本はいろいろな鉱物がでるが大きな鉱床がない鉱物博物館だ」という定説を覆す発見でした。日本の鉱業史上に残る大発見であり、マルコ・ポーロが東方見聞録に書き残した「黄金の國ジパング」を彷彿とさせるものでした。

◆ こんな夢のような大規模超高品位鉱床発見への経緯・鉱床形成の背景・熱水系の広がりや変遷などが、懐かしい思い出話からちょっと難解な年代や同位体・地質温度計などを使った研究まで幅広い内容となりました。この分野に興味を持っておられる読者にはまさに「永久保存版」、大いにご活用下さい。

なお、次々号にはこの特集の続きが掲載される予定です。そちらもご期待下さい。

◆ 昨年の10-11月号の富士山特集号にご投稿いただいた富士山測候所の稲葉和宏技術課長から「特集号の記事に登山者や雪崩研究者の間でも反響があり驚いている」とのうれしい便りをいただきました。

しかしその一方で、誤った記述や曖昧な表現を指摘されてしまったとのこと。訂正の申し入れをいただきましたので編集後記の末尾に【訂正】の欄を設け訂正させていただきます。

読者の皆さんから反響をいただくのは大変うれしいこと、と同時に本誌の社会的責任も大きくなったということ。一層わかりやすく正確な記事を掲載せねばと編集委員会も改めて肝に銘じました。

◆ 「編集委員長が猫の目のようかわる」という評判があるようですが、本号からこの任を鉱物資源が専門の須藤定久が担当することとなりました。交代が目立たぬように、同姓の人間が選ばれたようです？記事がないときの「埋め草作り」からの転身、前任者同様よろしく願いいたします。（須藤定久）

【訂正】地質ニュース591号(2003年11月号)、6~15ページの「富士山測候所」の一部を次のとおり訂正させていただきます。

- ①9ページ右上から10行目、「この時期は黄砂の混じった雪も降り、」とあるところを「この時期は黄砂も飛来し、」と訂正します。
- ②10ページ右上から20行目、「これは厳冬期を中心とする10月から2月の間に多く発生する」を「これは積雪初期の10月から12月に多く発生する」と訂正します。

---

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：山本茂男

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3603

Fax. 029-861-3602

地質ニュース	第599号	2004年	7月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2004年7月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2004 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ